

学会参加報告 (23rd Asia Pacific Tourism Association Annual Conference)

立教大学大学院現代心理学研究科 川久保 惇

【概要】

Asia Pacific Tourism Association Annual Conference は、アジア太平洋地域内の観光研究の発展を目的として、毎年開催されている国際学会である。今年度は2017年6月18日から21日までの3日間、韓国の釜山市で開催された。25を超える国と地域から約250名が参加し、活発な議論が行われた。発表論文は156本（採択率80%）であり、内容も Tourism Marketing, Ecotourism, Education, Information & Technology から Mental Health まで多岐に渡っていた。

本年度の開催地となった釜山市は、人口約370万人の韓国第2の都市として知られ、海と山に囲

まれた自然と都市が調和した港湾都市になっている。地理的には、韓国首都のソウルよりも日本の方が近く（ソウルから南南東へ約400キロ、福岡からは北へ約200キロ）、飛行機を使えば東京から2時間程で行くことができる。韓国内に限らず、国外からも観光客が訪れる観光地であり、ホワイトサンドのビーチは夏になると数百万人の避暑客が訪れる一大観光スポットになるという。学会会場である Novotel Ambassador Busan は、釜山の中心部ということもあって、夜はとても賑わっていた。写真1は、学会会場近くのビーチの様子である（早朝であったため、人出はそこまで多くなかった）。



写真1 釜山のビーチ

【研究発表と所感】

著者の学会発表タイトルは、「Recovery experiences during vacation promotes life satisfaction of Japanese employees through creative behaviors」であった。今回の研究課題では、日本在住の常勤従業者 800 人を対象とした調査を実施した上で休暇、職務満足感と人生満足感の関係について検討した。

分析結果から、休暇経験が従業員の創造性や職務・人生満足感に肯定的な影響を及ぼすことが確認された。また、仕事への献身は直接ではなく、職務満足感を介して人生満足感を高めることが認められた。さらに、余暇や休暇は従業員だけではなく、企業にとっても重要であることが示唆された。

発表は、決められたセッション内で 3-5 人の発表者が、各 20 分ほどの時間を使って口頭発表と質疑応答を行う形式であった。英語の口頭発表は、何度やっても慣れるということがなく、とても緊

張した。質疑応答で上手く答えることができない場面もあったのが残念であったが、発表を通じて、研究の問題点、疑問点や今後の課題についての議論を深めることができた。

大会中には、学会主催の Excursion としての釜山市内の観光ツアーやハードロックカフェでの親睦会（写真 2）などがあった。国際学会の楽しみの一つが、こうした観光や他の研究者との交流である。今後も積極的に様々な学会に参加していきたい。

APTA の Conference には、毎年参加しており、今年で 4 回目になる。年を追うごとに徐々に日本からの参加者も増えてきた。観光をテーマとする学会ではあるが、発表自体は学際的で、心理学をバックグラウンドにした発表も多かった。学会参加を通じて、現在の研究動向の把握のみならず、今後の研究への意欲が高められ、とても有意義な時間を過ごすことが出来た。

次回の APTA Conference は、2018 年の 6 月にフィリピンのボラカイ島で開催される予定とのことである。ボラカイ島は、「世界一美しいビーチ」に選出されるなど観光地としても魅力的な場所であることから、是非、来年も参加したいと考えている。同時に、学会にて自らの発表をより上手く伝えることができるよう、今から準備しておきたい。

最後に、今回、学会参加費、渡航費および現地滞在費への助成を頂いた立教大学現代心理学研究科の関係者各位、共同発表者である文教大学山口一美教授、ならびに研究に協力して頂いた調査協力者の方々に深く謝意を申し述べたい。



写真 2 APTA at ハードロックカフェ